

2024年4月新設 健康栄養科学研究科

少

子高齢化が急速に進む日本では、高齢者の方々が住み慣れた地域で心豊かな暮らしを継続していくための支援が急務となっています。そうした社会要請を背景として、2024年

を推進していきます。

4月、愛知淑徳大学大学院に新たに設置されたのが、「健康栄養科学研究科」です。人々の健康に不可欠な栄養を含む医療・介護領域における諸問題の解決を見据え、多職種連携の強化や健康長寿社会の実現をめざした教育・研究

本研究科の強みは、栄養学、医学、社会学、心理学といった学問領域の多様性や、地域に根差す愛知淑徳大学クリニックが隣接した環境です。臨床・研究・教育の経験豊富な専任教員の指導のもと、健康の維持・増進に貢献する研究者や、多職種連携においてリーダーシップを発揮できる高度専門職業人を養成します。

■教育・研究の特色

実績ある医療人や研究者が指導

医療社会学や公衆衛生学を専門とする内科医、咀嚼・嚥下の診療に従事する歯科医師、介護高齢者栄養管理を専門とする管理栄養士など、栄養学に関連する医療・介護・福祉などの専門家が教育・指導を行います。

学修と研究をAHSMECが支援

地域医療の拠点である愛知淑徳大学健康・医療・教育センター(AHSMEC)の愛知淑徳大学クリニック、心理臨床相談室、健康相談室、リハビリテーション室と連携し、現場に即した学修・研究を支えます。

食と栄養に関わる研究者や実践者を養成

＜養成をめざす人材像＞

- 地域で栄養ケア・マネジメントを担う管理栄養士のリーダー
- 地域包括ケアなどの政策を立案実施する行政機関の専門職員
- 管理栄養士養成機関において後進を育成する教員

■多様な社会課題に対応する8領域

生活習慣病	地域栄養学	栄養教育論	応用栄養学
公衆衛生学	臨床栄養学	健康食事学	口腔健康科学

2024年4月、研究科長・植村和正教授と、
管理栄養士として働きながら研究科に進学した院生による対談を行いました。

健康栄養科学研究科 研究科長

植村 和正 教授

愛知淑徳大学クリニック
内科・糖尿病内科 医師
(総合内科専門医、糖尿病専門医)

健康栄養科学研究科 修士課程1年

小川 麗さん

・名古屋大学医学部附属病院
栄養管理部 管理栄養士
・愛知淑徳大学 健康医療科学部
健康栄養学科 2020年度卒業



理解や応援もあつて、進学を決定しました。愛知淑徳大学クリニックが学内にあり、地域医療の現場に近い環境ということも、急性期、病院で働く私にとってプラスになると考えました。

理屈や応援もあつて、進学を決定しました。現在、管理栄養士4年目で、病棟での多職種カンファレンスやチーム医療への参画など多様な業務に携わっている中で、その気付きも踏まえて学修・研究に励みます。植村教授 今後の目標を聞かせてくれますか？

小川さん これから研究科で学修・研究する経験を、栄養指導をはじめ日々の業務に活かしていくことが、一番の目標です。患者さま一人ひとりの生活の質を維持・向上することに貢献したいと考えています。植村教授 チーム医療で各専門職がどのように患者さまやご家族を支えているのか、多職種の視点を体験的に学ぶことも、患者さまの個々の課題と向き合う力になるでしょう。治療だけでなく健康増進や予防医療など、広い視野で探究してください。

広い視野で研鑽を積み重ねて臨床の現場や患者さまへの還元をめざす。

植村教授 小川さんはなぜ本研究科に進学しようと思ったのですか？

小川さん 管理栄養士として患者さまへの栄養食事指導や栄養管理などに携わる中で、臨床栄養学の専門性を深めたいという思いが強くなったからです。そんなとき、母校の大学院に健康栄養科学研究科が開設されると知り、在学中お世話になった先生方に相談しました。仕事と学修・研究の両立ができるよう柔軟にサポートしてくださると聞き、さらに職場の

植村教授 患者さまはそれぞれ事情が異なり、生じる課題は多岐にわたります。だからこそ、学際的に学ぶことが重要です。で、ぜひ広く興味を持ち、多様な観点から物事を捉える力や現実的な問題解決力を磨いてほしいと期待しています。小川さんは、具体的にはどんな学修・研究に取り組みたいと考えていますか？

小川さん 職場で集約したデータを分析し、腹膜透析の患者さまに対する栄養介入の意義について研究したいと考えています。また、疾患に関する専門知識も身につけて、診療ガイドラインを鵜呑みにせず、批判的吟味ができる力を鍛えたいと

